

令和4年度



12月

園だより



文京区立根津幼稚園

## 「いのち」に触れる

園長 小岩井 聡

今、世界では、サッカーワールドカップ・カタール大会が盛り上がっています。サッカーというものは、なぜあそこまで世界の人々を熱狂させるのでしょうか。もしかすると、どこの国でも、広場とボールが一つあればできるという手軽さからかもしれませんね。

さて、園ではサッカー以上に子どもたちを興奮させた行事が11月末に行われました。「一日動物村」です。これは、文京区教育委員会の「命を大切に作る豊かな感動体験」の一環として行われたものです。子どもたちにとって様々な動物に触れ合い、楽しむ機会となりました。ヒヨコ・ニワトリ・アヒル・ハツカネズミ・ウサギ・ヤギ・イヌなど、家で飼っていないければ（ヤギやアヒル、ニワトリは、なかなか自宅で飼うのは大変そうですが…）日頃、なかなか触れ合うことのできない小動物たちと楽しい時を過ごすことができました。

まず初めに、どうぶつ村（動物を連れてきてくださった会社）の係の方の話を神妙な顔で聞き、その後、実際に動物に触れる時も、子どもたちは慎重そのものでした。しかし次第に慣れてくると、少なからず手荒さも出てきます。しかし、そうなると動物もただ黙って触られてはいません。逃げる、逃げる。（噛みついたり、吠えたりしないのがよく馴れられているところです。）チョコチョコと逃げられる動物たちは、子どもではなかなか捕まえられず、がっかりして見ていることになります。そこで改めて、「そぉーっとね」と係の方に膝に乗せていただいたり、抱っこさせていただいたりすると、手のひらやひざの上に、小さな動物のぬくもりや心臓の鼓動を感じます。

その瞬間に子どもたちが、どんなに可愛くて、どんな小さくとも、生き物は「オモチャ」ではないのだ。命があるのだと感じてくれているように思います。

根津幼稚園の子どもたちは、先日「命」の大切さ、「死」の別れの悲しさを、大切にお世話していたモコちゃんに教えてもらったばかりです。その寂しさを、もう口には出さないけれども、この日の子どもたちの動物との触れ合い方や撫で方から、モコちゃんが教えてくれていたことをしっかりと受け止めていたように思います。今は「命」や「死」というものに直接かかわる機会が減多にない子どもたちです。しかし、小さいから分からないだけでなく、小さいからこそ分かる「命」の在り方が、そこにあるような気がします。動物たちのぬくもりは、そのことを子どもたちに学ばせてくれたと思います。

ちなみに、私も昔、小学生の頃に飼っていた「コロ」というメスの柴犬を思い出しながら、その日来ていたイヌのチョコちゃんに癒された秋の一日でした。

